レコーディング数日前までに用意・確認されているべきデータ

- 品番（レーベル側で用意）
- ISRC コード（レーベル側で用意）
- JAN コード（レーベル側で用意）
- レコーディングスケジュールとその共有
- 録音譜と演奏譜の小節番号、リハーサル記号の統一共有
- 仕込み図
- 録音用の譜面（書き込み可・返却無し・可能であればメモ書きのないもの）
- メタデータ（アルバムタイトル、正トラックタイトル、発売日等）
- トラックオーダー順
- ジャケ写、アー写
- プリプロの音源
- 利用する演奏備品の確認（椅子・譜面台等）

レコーディングの持ち物、録音中に配慮されるべき事項

- 演奏ノイズの出にくい服装と靴とアクセサリー（カサカサ音等）
- テイク終了後の長めの無音に対する協力

編集と表現されている工程

※本来はそれぞれ別のプロセスであるが、近年はほぼ同時進行させる

曲中編集 (edit)

1st - 録音時にプランニングしたプランに基づき組み上げる

2nd -1stEdition の修正。基本エクセルシートでやりとりを行う

3rd- ほぼ仕上げ (semiFinal)。曲順確定。電信で伝わりにくい場合は立ち合い等。

4th-Final。これ以降はコンテンツの変更は無い前提。

トラックダウン /(プリ) マスタリング

トラックダウンとマスタリングは近年のクラシック音楽の制作シーンに於いては明確に区別しにくい。曲中編集と並行して調整を進めるイメージ。まずは目的にそぐう音質で録音しておく事がなにより大事。また、近年のオンラインの制作シーンでは、個々にリファレンス環境が築けていて、オーディオファイルとコンパクトディスクが同等に再生出来る事が前提となる。

※現在どの工程を進行しているのか把握する必要がある

FIX 校了

ここから実際のマスターの作成。トラックタイムも確定する。

FIX したデータからアウトプットするマスターを作成するフェーズに移行していく。

↓

マスター作成（実）マスタリング

Digital Released Master

データの最終確認

↓

MTFF Image

↓

high resolution

(192kHz, DXD, DSD, etc)

normal resolution

ADM

CD Master

データの最終確認

↓

イメージファイル生成 (pmi)

↓

DDP ファイル生成

↓

焼き付け《**DDPMaster**》

プレス工場

グラスマスター生成

↓

ディスクプルーフ取得

（計画による）

↓

（ディスクプルーフが OK な場合）

※プルーフを取得しない場合ロード・バックの検聴がこれに変わる手段となる

製造

ロード・バックに問題がなかった場合【入稿】

ロード・バック確認の工程

読み込み

↓

ロードバック（オーディオデータ）

※U マチック、PMCD の時代は存在しなかった工程。DDP 初期の頃はあまり意識されていなかった。つまり、DDP マスターの中身は読み込み直さないと確認する事が出来ないので、それを知る・確認する手段 = ロード・バックと呼ばれている重要な工程。またこれらのプロセス的な理由から副マスターの生成は意味を成さない。

この工程で確認用 CD-R の生成は出来なくないが、実際のロードバックから工程が離れてしまうため、オーディオデータによる検聴のほうが正確ということになる。

入稿

ディストリビューター

日本レコードセンター

レーベル在庫

アーティスト在庫等

※工場から直送。このため仕様が決定する時点で納品先（名前・住所・郵便番号・電話番号・枚数）が確定している必要がある。また即売会状などに直送する場合は事前にその情報がわかっている必要がある。

納品

発売

↓